

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松	ユニット名	北ホーム
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	平成27年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=2297100253-00&PrefCd=22&VersionC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成27年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は理念も定着し、実践に向けての取り組みを始めています。法人でも新たにユニットケア委員会を立ち上げたこと合わせて、きらら浜松では生活暦を担当職員が家人や本人から情報を収集し、「入居者様への思い」を発表し、同じ方向を目指してケアできるよう努めています。そして三回目になる研究発表での取り組みを「接遇」とし力を入れ毎日、反省会を行い気持ちいい言葉掛けを目指しています。26年度の重点目標を「季節を感じて、美味しい、楽しい、気持ちいい時間の提供を目指します。」とし、出来るだけ皆で、月に一度の外出や外食を計画し、一度の人生を素敵な思い出として残せるようお手伝いをさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎え、利用者にとっては地域との付き合いが暮らしの一部となっている。庭木の剪定や野菜の植え付けには、自治会のボランティアが訪れている。法人主催の「きららまつり」では、300名を超す多くの住民の参加や地域合同クリスマス会、幼児親子とふれあう催しが行われた。施設長は職員と共に「笑顔の出るケア」の実現を目指している。利用者個別の支援に努め、日常的な散歩やユニット間・敷地内にあるデイサービス事業所に行き来したり、個別で希望の場所に月1回程の頻度で外出することで精神的・社会的支援を実践している。利用者の生活に笑顔が生まれることを目指した取り組みが記録物や利用者の様子により確認ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は見えるところに掲示し、日頃から意識するようにしている。毎日接遇の反省会を行うなどし、常に尊敬と共感の気持ちを忘れずに笑顔溢れるグループホームを目指している。	運営法人の理念に基づき、施設の目指す支援の方針を明文化すると共に、職員はもとより外来者の目にも触れやすいように掲示している。職員は理念の意義を共有してケアの実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域合同の防災訓練をはじめ、今年度は子育て支援の方や近隣の保育園・幼稚園との交流も少しずつ増えてきました。、町内のお祭りに参加したり、施設を屋台の休憩所とするなど、子供達との関わりも大切にしています。	町内会の行事や防災訓練、介護講座の開催等で積極的に住民との交流を図っている。「きららまつり」には300名もの住民の来所や世代を超えた幅広い交流があり、地域に開かれた事業所としての活動をおこなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティア等の受け入れは常時行っていて、認知症ケアへの理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、地域・南区役所・ご家族からの情報を日常生活や楽しみに取り入れられるようにしている。今年度からは介護相談員の方の意見を聞いたり、地域包括の方にも参加していただけるようにした。	2か月毎に開催し、多くの関係者が参加し、運営報告や地域交流等の話し合いがなされている。そこでの意見や提案等を運営に反映しサービスの向上につなげている。他事業所の運営推進会議にも参加して視野を広げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、日頃の疑問や相談をできるようにしている。介護保険などの分らない事は、連絡し聞くようにしている。	介護相談員の来訪時に意見交換の場を設けている。行政や地域包括支援センターの担当者との交流を通じた意見等を運営に活かすと共に、施設の取り組み等に関して意見交換が出来る関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回勉強会を行ったり、言葉による拘束について話し合いし、言葉や薬による拘束を減らせるようにしている。玄関の施錠については開放できていないが、開放の重要性は職員に意識気づけている。	運営法人は「身体拘束委員会」を設けている。身体拘束に関する正しい知識を職員全員が学び、日常生活の中で「言葉や気持ちを抑えつけないか…」振り返りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うと共に、虐待に繋がらないよう、話し合い相談出来たり、働きやすい職場作りにも努め、職員の精神面にも気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、分らない事は同じ事業所の支援専門員や地域包括の方に相談したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、料金変更・介護保険の改正時にも説明し承諾書を頂き、常に質問にも応じられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、職員や家族同士の意見交換を行っている。意見箱を設置したり、面会時には積極的に声掛けし、質問や要望をお聞きし、反映できるようにしている。	家族に本人の日常生活や施設の状況を丁寧に伝え、面会時の話し合いや家族アンケートから意見や要望を酌み取ることに努めている。家族会以外にも行事への参加を提案し、多くの意見等を聴く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回、アンケートや希望者には個人面談を行い、意見や要望を伝える事が出来る。業務に関しても会議などで意見を聞き、反映出来るようにしている。	施設長は日常の関わりの中で職員の意見を聞く機会を設けており、現場の状況にも精通している。職員が躊躇することなく意見等が言える間柄になっており、職員のやりがいや資格取得への意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、必要時には面談を行っている。人事考課により公平な評価がされている。各施設の共同決定委員が意見を伝え、働きやすい職場環境にするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の資料は回覧し、希望があれば参加出来るようにしている。研修に参加したら、会議などで報告している。働きながら分らない事は解決し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会主催の研修に参加したり、つながりを持つことができ、他施設の意見やサービスを参考に質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から情報を収集し、どのような生活をしていきたいかなどを聞かせていただき、担当職員を中心に関わりを深め、職員で共有出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族の不安や困っている事など、傾聴と受容に努め、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族はもちろん、ケアに携わる方から情報収集を実施し、必要としている支援を見極め、その時の状況に適したケアの提供を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や食事を作ったり、家事を共に行うことで、会話をしながら助言をいただいたりして関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会以外にも行事などへの参加を提案したり、面会時など日常の様子伝えたり、意見をいただき家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等、いつでも面会できるようにしている。他施設にいらっしゃるご家族に会いに行ったり、希望があれば自宅や馴染みの場所に出掛けている。併設のデイサービスにお友達が来ているときは会いに行っている。	家族会の開催や「きらら通信」の発行、そして細やかな個別報告等により家族等に対する面会支援を押し進めている。家族アンケートによれば、回答者の93%が月に数回以上の訪問頻度であり、訪問の無い家族は皆無である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事など、出来るだけ皆で参加できるものを計画し、ご家族にも一緒に参加できるよう案内をしている。日常生活の中でも、一人ひとりの性格を把握し、良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、話をしたり、共同作業をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、近隣の方は新聞を届けてくださったり、ご家族の方がボランティアで演奏に来てくださったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に今までの生活や今後の希望を伺い、日常生活で活かせることがあるか会議で検討している。今年度は自分の担当の「入居者様への思い」を発表した。	アセスメントシートやセンター方式のD-1・D-2・B-3シート他を使いこなしている。今年度の法人課題のテーマを「入居者様への思い」とし、利用者についての理解をさらに深める発表会を行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室は使い慣れた家具や写真・作品などを持参していただき、御本人が服を選んだり、くつろいだり出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉などにより、心身状態の変化に気づけるようにし、十分な申し送りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、本人、家族、職員の意見取り入れて計画を作成している。	月1回のユニット会議では介護記録や家族の要望を含め、モニタリングと課題及び対応策を合議する。計画作成者はこれを介護計画に反映させている。家族には面会時にその都度報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会議記録、毎月のモニタリングや会議で問題点や対応策など話し合いをしながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状態に応じて外出したり、併設のデイサービスの慰問を見学したり、施設内を散歩したりと他事業所との交流も深めている。知り合いがデイサービスにきているときは会いに行ったり、習字を披露しに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員・傾聴、学生ボランティアなど、職員で無い人との交流により、刺激を受け豊かに生活できるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定している。嘱託医による月二回の往診と緊急時には連絡がとれ、指示を仰げる体制になっている。	かかりつけ医を希望する利用者は数名で、かかりつけ医の診療情報を家族と共有している。協力医療機関による定期回診があり、日常の医療的な処置記録も一読で把握できる形式の記録を取り入れている。	受診記録や日常の処置記録・バイタルサイン等の数値は適切に管理し保管されている。これらの記録に関して「家族は自由に閲覧できる」ことを知らせる機会を設けることが期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内に看護師がおり定期的に健康状態の確認と観察を行い、体調不調時や処置への対応などを行っている。緊急時には連絡体制があり、指示を仰げるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、担当医や相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針は契約時に説明している。終末期のあり方については定期的に家族と話し合いをし、重度化した場合は、主治医・看護師・家族との早めの話し合いの機会を持つようにしている。	重度化対応指針の文書は必須要件が漏れなく、かつ具体的に説明された7章で構成されている。職員への研修や産業医によるフォロー体制、協力医療機関の医師からも協力を得ている。近年の看取り介護の事例は年1名程度である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡先や傷病者カードと共に誰が見ても対応できるようにしている。勉強会では急変時の対応や処置を学んでいる。年に一回消防署職員による救命処置の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画を立て、さまざまな想定による防災訓練を定期的に行っている。年に二回は地域合同の防災訓練を実施し、反省会まで行い次回に活かしている。消防署にも見えていただき、消火訓練をしている。	昨年度末の地域防災訓練は、利用者や家族をはじめ自治会・民生委員・消防署職員・職員で、地震後の火災を想定して行った。参加者より20項目の課題が提案され、対策に取り組んでいる。浜松市避難行動計画にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは常に自己選択・自己決定を意識するようにしている。毎日接遇に関する反省会を実施し、家庭的で暖かい雰囲気を残しつつ、尊敬と共感の気持ちを忘れないようにしている。	利用者のプライバシー保護の取り組みにかかる研修を計画している。今年度の課題を「接遇」とし、反省会を実施している。職員は職員同士で接遇に関する意見を言い易い雰囲気になったと評価している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな機会に応じ、やりたいこと、行きたい所、食べたいもの等、日常生活の中で伺いながら希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、その人の気持ちやペースに合わせ、時間や日時を変更したり自分で選んで決めていただけるよう、ゆとりのあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は、自分で服を選んでいたり、行事のときなどは化粧をすることもあります。月に一回の訪問理容には希望の髪型を伺いながらやっていたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物をするところから始まり、食事を作り片付けまで一緒に行いながら会話をし、季節を感じたり、昔を思ったりと楽しく食事をすることが出来ている。月に一度の外出と外食にも取り組んでいる。中庭で少しだが季節の野菜の収穫をしている。	利用者との語らいは食材や味付け等の好みを起点としたり、BGMとしてオルゴールミュージックを流している。利用者の嗜好アンケートも行っている。利用者との食事は休憩時間としてカウントしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表にて確認し、食事形態や容器・スプーン・セッティングなど工夫し、出来るだけ自分で食べられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人一人の状態に合わせた声掛けと対応をしている。提携歯科医を確保し、衛生士による月に一度の口腔衛生指導を受け、必要時には往診や受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。誘導・介助方法なども話し合いし検討している。不安や羞恥心、プライバシーにも配慮している。	安心することで失敗する可能性が大きくなる要因を考慮して、おむつから紙パンツに移行することに努めている。その日の利用者の状態とチェック表による見極めを重要視し、失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量・運動量を管理すると共に、本人に合わせ乳製品や果物を提供したり、お腹を温めたり、マッサージをしたりし促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で一人一人ゆっくり入浴していただいています。曜日や順序を決めることなく回数や時間は、その日の本人の希望に沿えるようにしている。季節に応じてゆずや入浴剤を入れたり、楽しめるよう努めている。	毎日入浴を希望する利用者や同性介護の要望にも対応している。入浴を拒否する利用者の場合には、相性の良い職員が対応する。職員は利用者の気持ちを共感する好機としても、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具の清潔にも気をつけている。日中は体調に応じて休まれる方もいるが殆どの方が活動的に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表には、用法・量・目的が記載されており、会議などでは薬による副作用の説明も行っている。薬は複数の職員でチェックする体制ができていて、変更時には記録・申し送りがされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴を担当職員を中心に把握し、全員で共有できるよう発表し、得意なこと、楽しめることを生活に取りこめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会があり、その方の趣味や馴染みの場所に出かけています。毎月外出や外食の行事の計画をし、出来るだけ皆で季節を感じながら楽しめるように努めています。ご家族の希望があれば職員が同行し家族との外出支援も提案している。	利用者が普段は行けないような場所にも、個別に月1回のペースで外出できる支援に努めている。順番での外出となる為、外出行事は毎週行われている。家族との外出に職員が同行する外出支援についても感謝の言葉を受け、家族会等で広めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて個人で所持するケースもありますが、殆どは事務所で管理し、買い物や外出時にお小遣いとして使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員がお手伝いしながら、電話をすることも出来ます。年賀状は毎年、書ける方は家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとした居間には自然の光や入り、籐の椅子が置かれている廊下からも中庭を眺めると常に季節を感じる事ができる。壁には入居者の作品や季節の掲示物が飾られていて、くつろげる空間が広がっている。	空間を仕切る格子や障子は気持ちが良い休まる効果を持つ。野菜や花を育てる中庭には、居間からスロープにより容易に出られることで在宅の雰囲気が出されている。美化委員会による環境整備で、季節に応じた雑草取りや各所にある生花が潤いを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広めの廊下には籐の椅子が置かれ、いつでもくつろげるスペースが作られている。居間には畳もあり、落ち着ける雰囲気になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に出来るだけ今まで使っていた物を持って来ていただき安心して落ち着いた生活が出来るよう配慮している。	居室は和室と洋室がある。利用者の実情に応じてベッドや布団に対応している。格子の区切りのある洗面所は私宅を連想させる。利用者の状況に応じ、安全対策にも配慮された居室がレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、混乱しないように目印や表札を掲示している。安全に生活できるように手すりや感知照明を設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松	ユニット名	南ホーム
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	平成27年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=2297100253-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年12月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は理念も定着し、実践に向けての取り組みを始めています。法人でも新たにユニットケア委員会を立ち上げたことと合わせて、さら浜松では生活暦を担当職員が家人や本人から情報を収集し、「入居者様への思い」を発表し、同じ方向を目指してケアできるよう努めています。そして三回目になる研究発表での取り組みを「接遇」とし力を入れ毎日、反省会を行い気持ちいい言葉掛けを目指しています。26年度の重点目標を「季節を感じて、美味しい、楽しい、気持ちいい時間の提供を目指します。」とし、出来るだけ皆で、月に一度の外出や外食を計画し、一度の人生を素敵な思い出として残せるようお手伝いをさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は見えるところに掲示し、日頃から意識するようにしている。毎日接遇の反省会を行うなどし、常に尊敬と共感の気持ちを忘れずに笑顔溢れるグループホームを目指している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域合同の防災訓練をはじめ、今年度は子育て支援の方や近隣の保育園・幼稚園との交流も少しずつ増えてきました。町内のお祭りに参加したり、施設を屋台の休憩所とするなど、子供達との関わりも大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の介護体験やボランティア等の受け入れは常時行っていて、認知症ケアへの理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、地域・南区役所・ご家族からの情報を日常生活や楽しみに取り入れられるようにしている。今年度からは介護相談員の方の意見を聞いたり、地域包括の方にも参加していただけるようにした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、日頃の疑問や相談をできるようにしている。介護保険などの分らない事は、連絡し聞くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回勉強会を行ったり、言葉による拘束について話し合いし、言葉や薬による拘束を減らせるようにしている。玄関の施錠については開放できていないが、開放の重要性は職員に意識気づけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うと共に、虐待に繋がらないよう、話し合い相談出来たり、働きやすい職場作りに努め、職員の精神面にも気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、分らない事は同じ事業所の支援専門員や地域包括の方に相談したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、料金変更・介護保険の改正時にも説明し承諾書を頂き、常に質問にも応じられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、職員や家族同士の意見交換を行っている。意見箱を設置したり、面会時には積極的に声掛けし、質問や要望をお聞きし、反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回、アンケートや希望者には個人面談を行い、意見や要望を伝える事が出来る。業務に関しても会議などで意見を聞き、反映出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、必要時には面談を行っている。人事考課により公平な評価がされている。各施設の共同決定委員が意見を伝え、働きやすい職場環境にするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の資料は回覧し、希望があれば参加出来るようにしている。研修に参加したら、会議などで報告している。働きながら分らない事は解決し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会主催の研修に参加したり、つながりを持つことができ、他施設の意見やサービスを参考に質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から情報を収集し、どのような生活をしていきたいかなどを聞かせていただき、担当職員を中心に関わりを深め、職員で共有出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族の不安や困っている事など、傾聴と受容に努め、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族はもちろん、ケアに携わる方から情報収集を実施し、必要としている支援を見極め、その時の状況に適したケアの提供を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や食事を作ったり、家事を共に行うことで、会話をしながら助言をいただいたりして関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会以外にも行事などへの参加を提案したり、面会時など日常の様子伝えたり、意見をいただき家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等、いつでも面会できるようにしている。他施設にいらっしゃるご家族に会いに行ったり、希望があれば自宅や馴染みの場所に出掛けている。併設のデイサービスにお友達が来ているときは会いに行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事など、出来るだけ皆で参加できるものを計画し、ご家族にも一緒に参加できるよう案内をしている。日常生活の中でも、一人ひとりの性格を把握し、良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、話をしたり、共同作業をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、近隣の方は新聞を届けてくださったり、ご家族の方がボランティアで演奏に来てくださったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に今までの生活や今後の希望を伺い、日常生活で活かせることがあるか会議で検討している。今年度は自分の担当の「入居者様への思い」を発表した。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室は使い慣れた家具や写真・作品などを持参していただき、御本人が服を選んだり、くつろいだり出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や言葉などにより、心身状態の変化に気づけるようにし、十分な申し送りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、本人、家族、職員の意見取り入れて計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会議記録、毎月のモニタリングや会議で問題点や対応策など話し合いをしながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状態に応じて外出したり、併設のデイサービスの慰問を見学したり、施設内を散歩したりと他事業所との交流も深めている。知り合いがデイサービスにきているときは会いに行ったり、習字を披露しに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員・傾聴、学生ボランティアなど、職員で無い人との交流により、刺激を受け豊かに生活できるよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定している。嘱託医による月二回の往診と緊急時には連絡がとれ、指示を仰げる体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内に看護師がおり定期的に健康状態の確認と観察を行い、体調不調時や処置への対応などを行っている。緊急時には連絡体制があり、指示を仰げるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、担当医や相談員と連携を図り、早期退院に向けての情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針は契約時に説明している。終末期のあり方については定期的に家族と話し合いをし、重度化した場合は、主治医・看護師・家族との早めの話し合いの機会を持つようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡先や傷病者カードと共に誰が見ても対応できるようにしている。勉強会では急変時の対応や処置を学んでいる。年に一回消防署職員による救命処置の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画を立て、さまざまな想定による防災訓練を定期的に行っている。年に二回は地域合同の防災訓練を実施し、反省会まで行い次回に活かしている。消防署にも見えていただき、消火訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは常に自己選択・自己決定を意識するようにしている。毎日接遇に関する反省会を実施し、家庭的で暖かい雰囲気を残しつつ、尊敬と共感の気持ちを忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな機会に応じ、やりたいこと、行きたい所、食べたいもの等、日常生活の中で伺いながら希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、その人の気持ちやペースに合わせ、時間や日時を変更したり自分で選んで決めていただけるよう、ゆとりのあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は、自分で服を選んでいただいたり、行事のときなどは化粧をすることもあります。月に一回の訪問理容には希望の髪型を伺いながらやっていたいしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物をするところから始まり、食事を作り片付けまで一緒に行いながら会話をし、季節を感じたり、昔を思ったりと楽しく食事をすることが出来る。月に一度の外出と外食にも取り組んでいる。中庭で少しだが季節の野菜の収穫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表にて確認し、食事形態や容器・スプーン・セッティングなど工夫し、出来るだけ自分で食べられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人一人の状態に合わせた声掛けと対応をしている。提携歯科医を確保し、衛生士による月に一度の口腔衛生指導を受け、必要時には往診や受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、個人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。誘導・介助方法なども話し合いし検討している。不安や羞恥心、プライバシーにも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量・運動量を管理すると共に、本人に合わせ乳製品や果物を提供したり、お腹を温めたり、マッサージをしたりし促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個室で一人一人ゆっくり入浴していただいています。曜日や順序を決めることなく回数や時間は、その日の本人の希望に沿えるようにしている。季節に応じてゆずや入浴剤を入れたり、楽しめるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の空調や照明やタイミングは本人に合わせ、寝具の清潔にも気をつけている。日中は体調に応じて休まれる方もいるが殆どの方が活動的に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表には、用法・量・目的が記載されており、会議などでは薬による副作用の説明も行っている。薬は複数の職員でチェックする体制ができていて、変更時には記録・申し送りがされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴を担当職員を中心に把握し、全員で共有できるよう発表し、得意なこと、楽しめることを生活に取りこめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会があり、その方の趣味や馴染みの場所に出かけています。毎月外出や外食の行事の計画をし、出来るだけ皆で季節を感じながら楽しめるように努めています。ご家族の希望があれば職員が同行し家族との外出支援も提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて個人で所持するケースもありますが、殆どは事務所で管理し、買い物や外出時にお小遣いとして使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員がお手伝いしながら、電話をすることも出来ます。年賀状は毎年、書ける方は家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとした居間には自然の光や入り、籐の椅子が置かれている廊下からも中庭を眺めると常に季節を感じる事ができる。壁には入居者の作品や季節の掲示物が飾られていて、くつろげる空間が広がっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広めの廊下には籐の椅子が置かれ、いつでもくつろげるスペースが作られている。居間には畳もあり、落ち着ける雰囲気になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に出来るだけ今まで使っていた物を持って来ていただき安心して落ち着いた生活が出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、混乱しないように目印や表札を掲示している。安全に生活できるよう手すりや感知照明を設置している。		